

## 第 1 回 医療介護連携に関する専門部会 意見要約

## ＜多職種による患者情報の共有に関する意見＞

## (1) 多職種連携会議について

- ケアマネジャーが、サービス担当者会議に、介護保険を利用している訪問看護師は呼び、医療保険を利用している訪問看護師は呼ばないことがある。  
(ケアマネジャーは、介護保険サービスの支給限度額の範囲内でケアプランを作成し、サービスの給付管理を行うことが業務の中心であるため)
- 薬剤師は薬局に閉じこもりがちで、多職種連携が進みにくい。

## (2) 異なる職種への患者情報の伝え方について

- 看護師は、ヘルパーやケアマネジャーに自分たちの思いを伝えることができていない。
- ケアマネジャーは、かかりつけ医から、細かい処置内容や薬の変更などの情報を入手できない。
- ヘルパーは、ケアマネジャーに患者情報を十分に伝えられていない。
- 医師は、どのような情報がどの辺りまで必要なのかを、訪問看護師などを通じてヘルパーに伝えることが大事。
- 医師は、ケアマネジャーとの共通言語・用語が少ないため、ケアマネジャーからの報告書に書かれている介護保険の用語に慣れておらず、あまり読まないケースがあるが、訪問看護師の報告書は読んでいる。
- 医師は、ケアマネジャーや看護師等に対し、相手に理解されるような説明の仕方ができればよいが、まだまだできていない。
- 介護職であるヘルパーやケアマネジャーは、患者の様々な情報を持っているが、情報を医師に伝えられていないため、医療に活かせていない。医療と介護をつなぐのが看護師や薬剤師の役割である。

## (3) 入退院時の連携について

- 在宅療養患者の容態が急変して入院する際、ケアマネジャーの情報やお薬手帳の情報を有効活用できると機能的になる。
- 退院時の病診連携が不十分であるため、普段、在宅で診ている患者が入院中に、今後の在宅医療のことを十分に考慮されないまま、経鼻栄養や胃ろうができて退院してることがある。

## (4) 訪問看護シート（藤田委員提出資料）について

- 医師とケアマネジャー間の通訳をするのが看護師の役割。そのため、訪問看護シートを試行的に運用している。
- 居宅から救急搬送する際、医療処置に関する本人の希望を聞かれるが答えられないことがあるので、シートに本人の医療に対する意思決定や意向を載せてもらおうと色々な場面で共有できる。
- ヘルパーは普段、ケアマネジャーを通じて、利用者の介護に関する意向は

入手しているが、このシートがあれば、利用者の医療に関する意向も詳しく確認できる。

**【論点（案）】**

- 在宅療養生活を支える医療・介護関係者間で共有すべき情報について、整理してはどうか。
- 医療・介護間の共通言語を持つため、「医療介護連携のための用語集」を作成してはどうか。
- 医療と介護の連携のポイントをまとめた「医療介護連携ガイドライン」を作成してはどうか。
- 入退院時の連携を円滑に行うため、病院の地域連携部門の機能充実を図るとともに、「入退院時の連携シート」を作成してはどうか。
- 患者情報としての訪問看護シートを全市的に普及し、関係者との情報共有ツールとすることの可能性はどうか。

**<患者情報の共有方法、ICTに関する意見>**

- 今の時代に紙ベースだけで情報共有するのはどうか。
- ケアマネジャーとメールや LINE で患者の体重が何キロ増えた、ごはんを食べているか、などの連絡をとるようになった。医師にとって大変役立つので、このような形で ICT を活用できればよい。
- ICT で情報共有すると、患者は何回も同じ質問をされなくて済む。

**【論点（案）】**

- 患者・利用者の状態の変化等に応じて、医療・介護関係者間で速やかな情報共有を行うため、それぞれが必要とする情報を踏まえたうえで、紙ベースに加えて、SNS の活用なども検討してはどうか。

**<その他の意見>**

- 非がん慢性疾患の終末期は時期がはっきりせず、最期は急性期医療を受けながら亡くなるのが定番だが、多くの無念に触れ、患者の意思をどう実現するかに取り組んできた。市民啓発も大事。
- 非がんの人の看取りについて、経験のないケアマネジャーがケアプランを立てるのは役割過多。制度の問題。
- 「かかりつけ歯科医」や「かかりつけ薬局」の推進が必要。
- 歯科医師会未入会で訪問専門の歯科医が過剰な訪問歯科診療を行っている。
- 昔は、主治医の意見を聞いてから、歯科医師や訪問薬剤師が入る流れがあったが、今はケアマネジャーから直接依頼がきて、色々な訪問系サービスが入るため、家族が疲弊していることがある。患者の静かな暮らしとのバランスを見るべき。
- 色々なサービスがあるが、患者がどういう生活を望んでいるかという視点

がないとサービスの押しつけになる。

○介護保険の主治医意見書を書いても、その後に連携をとるのが難しい。追加情報を求められて FAX で情報をやりとりするが、多忙な中で、もう少しうまくやりとりできる方法があればよい。

○成年後見人の役割についても確認すべき。